

令和 3 年度第 7 3 回福井県小学校長教育研究鯖丹大会

アンケート集計

◇運営全般について（分科会）

◎多数意見

△検討課題

時間設定	◎1時間でちょうど良かった。 △もう少し時間があると、さらに話が深まったり広がったりしたかもしれない。
グループ協議	△グループ協議がなかったので発言が限られた。全員が発言できると良かった。 △小グループでの意見交換がなかったので、物足りなかった。 △人数が多いので意見を深めていく話し合いは難しい。Teams のブレイクアウトルームを使って少人数の討議にすると良かった。 △オンラインのため、グループ協議の時間が設定できなかったが、各市町の取組を共有できる時間があると良かった。
事前テスト	◎事前テストがあったのでスムーズで良かった。 ◎事前の資料送付や、運営委員の綿密な計画、詳細な打ち合わせや配慮が良かった。 ○今後もリモートの場合、事前の細かな打ち合わせは必要である。 △事前テストがつながっているか心配だった。30分前から音楽を流すと良い。 △接続テストをせずに、本番1回でできるとさらに良い。
Teams	○Teams の経験ができて良かった。 △Zoomの方が使い勝手が良いのでは。 △Teams に接続できるパソコンが古くて調子が悪かった。
オンライン開催	◎オンラインでも十分な成果や新たな学びが得られた。 ◎オンライン開催なので参加しやすく、短時間で有効な情報を得ることができた。 ○嶺南の者にとっては、オンライン開催のメリットは大きい。 ○移動時間がかからず、旅費や経費が削減できるのでオンラインが良い。 ○管理職が学校を空けなくてすむので、今後もオンラインがありがたい。 ○発表を聞き逃しても、資料のデータで確認できた。 △従来の参集型が良い。 △オンラインは発言するのが難しい。 △各分科会で、オンラインか参集型か、決めても良かった。 △他の分科会から間違えて招待されていたため、なかなかチームに入れなかった。 △ネットトラブルやサーバーの不具合で迷惑をかけた。 △学校の回線が使えないときは、別の回線や Zoom など利用すると良い。
その他	○質問等、さらに聞きたいときは、個別に発表者に聞くのが良い。 ○各分科会で、自由に開催日を設定できて良かった。 △司会や記録まで、全部を鯖丹地区が引き受けなくても良かったのでは。 △アンケートは Google フォームを利用して負担軽減すると良い。

◇発表について

第1分科会	・発表者の学校経営に対する熱い思いが伝わる大変素晴らしい発表だった。 ・学校経営ビジョンの大切さやふるさと教育を中心に据えた学校経営のあり方など、非常に参考になることばかりだった。次年度に向け、どのように今年度の反省を生かして学級経営ビジョンを練るか、今回の発表を参考に考えていきたい。 ・小浜地区のふるさと教育の発表が具体的で分かりやすかった。その具体例が呼び水となって、他地区の具体的取組が紹介されたのも、とても参考になった。 ・学級経営や授業による基礎基本があって、はじめてふるさと学習などが成立するものである。保護者や地域、企業との連携により、さらに発展した取組へと学校経営を行うスタイルは、これからの「社会に開かれた教育課程」実現のための重要なポイントになると感じた。
第2分科会	・研究発表会等の動画は、文字だけでなく訴えるものがあり、とても良かった。 ・児童が自然な感じで互いに相手の意見を聞き、自分の考えを伝える姿が素晴らしく、4年間にわたる実践で、フリートークが身についてきている様子がよく分かった。 ・質の高い学びの保障のために児童を育てる校長のリーダーシップから、学ぶことが多く、大いに刺激を受けた。 ・全教職員で目指す児童像(授業における姿勢)を共有できているのが素晴らしい。 ・職員が異動しても、児童が自分たちの学びを赴任した担任に教えられる学級や授業がつくれるというのは、児童に力がついていること、学校力のあらわれだと思った。 ・学校力を向上させていった取組に感心した。児童が成長し、変化していく姿は、教職員を動かしていくものだと思われた。
第3分科会	・ポジティブ教育を幼小中と継続的に行き、日常的な取組が児童や教職員の変容につながっていると感じ、学校運営に参考になった。 ・「キラリの木」は友達の「強み」を見える化し、自分の成長の足跡を追うこともできる取組である。 ・池田町では町をあげて、ポジティブ教育と協同的な学びという二つの側面から児童を育てている様子が分かった。 ・古くから伝わる伝統を大事に継承し、新しく地の利を生かして観光に力を入れ、さらにそれを支える次代の人づくりに町ぐるみで取り組んでいる様子が伝わった。 ・「ミライレンジャー」の取組は池田町に将来も住みたいと思えるようなものである。継続して行っていることで町民・児童・保護者等みんなが情報共有できている。
第4分科会	・校内研修の推進やミドルリーダーの育成という課題に対して、課題を明確にし、様々な角度から解決の方策を探っており、GIGAスクール構想を生かした発想や、働き方改革の視点ももった先進的な素晴らしい発表で、とても参考になった。 ・具体的な実践発表で、今後も人材育成に尽力し、自校で取り組んでみたいと感じた。 ・意識改革を進め、物事にとらわれずに教育活動を見直していきたい。 ・校長や学校間の横のつながりを強くし、学校運営を進めていきたい。 ・プレゼン力を鍛える中堅教員の指導力育成は、「引き出す教育」「楽しむ教育」を進めていく上でも有効であると思った。

	・様々な機会や短時間の研修、動画や外部講師の活用は有効だと感じた。
第5分科会	・発表内容は視点が明確で、パワーポイント資料が事前に送られていたので良かった。 ・危機管理について参考になることが多く、見直す点や改善しなければならない点があった。対応マニュアルを本校でも作成したい。 ・一つ一つの危機への対応を校長として明確にし、システムにしていくことの大切さを考えることができた。 ・情報モラルに対する危機管理についての発言は、話題が広がり、考えさせられることが多かった。 ・マニュアルの作成、ICT機器の効果的な活用には、管理職のリーダーシップが大切であると感じた。
第6分科会	・発表用のパワーポイント画像をファイルで共有したので、ダウンロードでき、写真も鮮明で良かった。活用させていただく。 ・発表時間20分、分科会全体で1時間というように時間を示していただいたことで、そのあとの自校での動きが読みやすかった。ESDに関する取組の発表で、大変参考になった。 ・福井県が重視している「ふるさと教育」や「引き出す教育・楽しむ教育」にも通じるものがあった。 ・長年にわたるESD等の取組「まほろば学習」をお聞きし、児童に地区への関心や関わりが根付いていることが分かった。本校は、地域への参加が今一步なので、今回お聞きした取組を参考にしていきたい。
第7分科会	・園からの情報がその後の支援に重要である。園との連携を積極的に進め、情報を精査し、早期発見や早期支援につながる連絡会実施の必要性を感じた。 ・「あさがおカード」の作成と掲示、個別指導と集団指導は両輪など、参考になった。 ・プレゼン資料を見ながら発表を聞くことで、具体的な取組や課題等がよく分かった。 ・特別支援教育の課題は、どの学校でも苦慮。支援を要する児童が増えている現在、校長のリーダーシップが必要。特別支援からの視点で学校経営を再確認する良い機会となった。 ・教員の負担軽減のために、資料データの共有や入力方式は効果的だと思った。特別支援教育コーディネーターの複数（多数）指名やチーム対応による家庭や外部専門機関との連携などが、管理職としての役割だと思った。
第8分科会	・資料が分かりやすく、テンポも良かった。発表内容に学ぶべきことが多く、これまでの自身の歩みを振り返り、まだまだやれることがあるという思いをもった。 ・日常的な取組について、家庭や地域との連携という視点で考え直すきっかけになり、地域と学校をつなぐ、校長という役割の責任の大きさを改めて感じた。 ・今後統合計画が進む当地域では、「双方向コミュニケーション」を意識し、保護者や地域の声をしっかり受けとめていく必要があると感じた。 ・児童の成長のため、保護者と同じ方向を向いて協働していく重要性を感じた。 ・コロナ禍で活動が制限されても、柔軟な発想で実践されているところが素晴らしいと感じた。

◇大会全体について

◎多数意見 △検討課題

大会開催	◎開催が危ぶまれたが、多様な意見が聞けて良かった。 ○校長同士が意見交換できる貴重な機会。今後も学びの場として続けると良い。 ○市町を越えての意見交換や情報交換は大切である。 △来年は参集して開催できると良い。 △ブロックごとに参集する方法も考えてはどうか。 △大会の見直しが必要な時期だと思う。今後もこの大会を続けるのなら、業務改善や担当地区の負担の面からも、大会運営の縮小化やスリム化を検討すべき。 △校長会が率先して、従来とは違うこれからの「教育研究大会」のあり方を示す大会にすると良い。
8 分科会	△全国や東海北陸があるからと設定しているが、校長の業務改善も必要である。
分科会	○分科会だけでも十分。来年、参集型にしても、規模を縮小する良い機会である。 △分科会の前に録画した挨拶や祝辞があれば、来年からもこの方法で良い。 △参集型の場合も、分科会は1時間30分で十分であると思う。 △参加者が集い、顔を見ながら話し合うことが大切である。意見交換については参集型の方が深まる。
オンライン 開催	◎コロナが終息してもオンライン開催が良い。 ○遠距離でも居ながらにして繋がることのできる研究大会が必要。 ○校長の出張は、校長の業務改善だけでなく、他の教職員に係る業務負担もあるので、リモート研修を進めていければと思う。 ○効果的に運用し、GIGA スクール構想の推進も含め、管理職としてオンライン会議についての理解や技能を深めていきたい。 △他の分科会の発表が、オンラインで自由に見られる期間を設定してほしい。 △全員がオンラインで全体会に参加後、オンラインで分科会に分かれると良い。 △オンライン開催と参集型とを組み合わせ、隔年で行うと良い。 △実施計画の準備段階からオンラインと参集型の両方を準備しておく、8/25 に実施できたかもしれない。
時期	△夏季休業中に参集型で行うのなら、残暑の中、分科会会場への移動は大変である。 1 か所で開催できる会場を押さえると良い。
大会要項 冊子	○要項の表紙の写真が良かった。 △製本経費を削減し、要項冊子は簡略化すべき。資料はデータ配信で十分である。
その他	○大会中止の判断が早く、連絡も速やかで良かった。 ○コロナ禍での企画・運営に感謝。2年連続で開催しないわけにはいかないという鯖丹地区校長先生方の熱い思いを感じた。 △一度中止になってからの、分科会のみオンライン開催は、運営委員の負担が大きかったのでは。